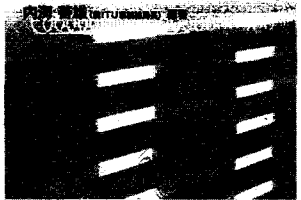




# 翻れ! 日本のICT産業

小野寺 正 氏 (KDDI社長) (日本郵政会長)  
 鈴木 正 氏 (NTT社長) (NTTグループ社長)  
 田中 浩 氏 (NTT社長) (NTTグループ社長)  
 矢野 龍 氏 (NTT社長) (NTTグループ社長)



筆者は、郵政省で通信の自由化に携わり、ITU(国際電気通信連合)の事務局長を務めた内海善雄氏。1980年に郵政省に「電気通信局」が創設され、通信の自由化による競争市場が形成され、いまや日本の電話、インターネットサービスは、品質、価格とも世

# 蘇れ! 日本のICT産業 デジタル革命 三十年の証言 内海 善雄 編著

一般社団法人情報通信振興会 刊

界最高水準にある。しかし、かつて世界を制覇したエレクトロニクス産業は中国、韓国企業に押され、大変苦戦している。一体この30年間で何が起きたのか?  
 座談会も交え、この歴史を振り返り、未来への教訓を取りまとめたのが本書である。ゼロであった電気通信振興政策予算は現在1600億円になっている。現業官庁から政策官庁へ脱皮を見事に果たしたが、その間、通産省(現経済産業省)とのVAN戦争にも触れており、実名入りで生々しくその当時を描か

れている。

日本の通信市場は85年の4倍の16兆円に膨らみ、NTTの他にKDDI、ソフトバンクなどの巨大キャリアが生まれ、競争により料金は劇的に低下した。しかし、通信の自由化を総括すると、通信産業の振興に対する国際戦略の不在が現在の惨めな国際的地位に至っているなど手厳しい。

また国連が主催した2003年のジュネーブ世界情報社会サミット(WISIS)における日本のアフリカに対する消極的な姿勢が中国企業の発展を生み出したこと、グローバル経済の時代にもはや日本だけの考えでは通用しない。世界の仲間と組んでどうしたら『世界商品』を創り出すかなど技術・標準化戦略の根本的発想の転換を指摘している。

(定価税込1050円)